

HAC、債務超過の見通し

3月期決算 経常損失2億3111万円

北海道エアシステム（HAC）は、2013年3月期決算の経常損失を2億3111万円と見込む修正事業計画案をまとめ、12日に筆頭株主の道に報告した。12年3月期決算の純資産約1億8千万円を上回り、田村千裕社長は「債務超過になる可能性は高い」との見方を示した。

道の補償あり「運航問題ない」

一方、金融機関から融資を受けられるよう道が2億円の損失補償をしていることを挙げ、「運営や運航に問題はな」と強調した。

HACは昨夏に現計画をまとめたが、旅客収入は昨年12月〜今年2月に3カ月連続で現計画を1割以上割

り込んでおり、計画の修正を迫られている。

新計画案では、今年度の経常損失が現計画より約9800万円拡大する見通し。一方、13年度には約1千万円の経常黒字に転じ、14年度には黒字が6千万円に拡大すると見込

んだ。

13年度の営業収入を約23億5千万円とし、現計画から約8千万円、上方修正したためだ。7月から全路線の全便を対象に日本航空（JAL）との共同運航を始めることで、9500万円の増収を計画。高い運

賃でも利用するビジネス需要を当て込み、5月から丘珠―釧路便を1便増やすなど、増便効果も見込んだ。

12日の道議会特別委員会では、厳しい意見が相次いだ。富原亮氏（自民）は「債務超過と言われても仕方がない。現計画は甘い見通しだった」と指摘。梶谷大志氏（民主）は「経営改善はその都度、場当たりので本質的な議論がなかった結果だ」と批判した。